

第76回
関西社会学会大会
プログラム

第1日 2025年5月31日（土）

第2日 2025年6月1日（日）

共催校（開催校）

摂南大学

社会学研究会 発行

[年三回発行 頒価2,500円]



編集 ソシオロジ編集委員会

〒606 8501 京都市左京区吉田本町 京都大学文学部社会学研究室内

電話 075 753 2751 FAX 075 753 2836

E-mail: editor@soshioroji.jp

URL: http://www.soshioroji.jp/

ONLINE ISSN:2188-9406 PRINT ISSN:0584-1380

(ソシオロジ同人入会手続きについて)

入会を希望される方は、ホームページより会員カードをダウンロードのうえ、必要事項をご記入いただきメールに添付にて送信してください。会員カードがダウンロードできない場合は、お電話でお申し込みください。

入会日より6ヶ月経過後、投稿が可能です。詳しくは編集室までお問い合わせください。

(ソシオロジバックナンバーの販売について)

全巻バックナンバーをそろえております。お問合せは、編集室までご連絡をください。

ソシオロジ

ブルデュー社会学で読み解く現代文化
片岡栄美・村井重樹 編著
160ページ・2640円

音楽、食、若者文化、ソーシャルメディアを対象とし、文化的オムニボア(雑食)の増大や趣味・嗜好の多様化、さらには文化的な不平等や卓越化の変容などを視野に入れた、ブルデュー社会学の現代的意義を提示する。

ピアノと暮らす 日本におけるクラシック音楽文化の受容と展開
本間千尋 著
324ページ・4180円

教養・趣味・教育の狭間で、ヤマハ音楽教室、ピアノ・ピアノコンペティションは日本のクラシック音楽文化やピアノ文化の普及にどのような影響を及ぼしたのか。明治期から現在に至るまで、日本のピアノ文化を創造していく過程を多面的に描き出す。

うつる人びと 映像で語るカレン・難民の少年との日々
直井里予 著
216ページ・2750円

地域研究者であると同時に映像作家でもある筆者が、十五年にわたるタイ・ビルマ国境に生きるカレン・難民の参与観察とドキュメンタリー制作を通して、映像表現の可能性と限界を問うものである。

環境と差別の社会学 フィールドとの対話から構造的差別へ
三浦耕吉郎 著
264ページ・4180円

前著の方法論(ディスコミュニケーション)に着目する(対話・論的アプローチ)や理論モデル(環境的正義のヘゲモニー分析に依拠した構造的差別モデル)は基本的に受け継ぎながらも、たんなる記述的分析にとどまらずに、社会史における儀礼研究を取り込みつつ、より深い社会的な理論化をめざす。

「孤独・孤立」の歴史社会学
梅田直美 著
292ページ・3850円

人々の言説活動は、いかにして社会を変えてきたか——孤独・孤立をめぐる歴史を紐解き、言説活動を社会変革につなげるためのヒントを探る。

職場関係学 経営社会学と労使関係論の先に
野瀬 正治 著
250ページ・3080円

社会現象、経営現象を「社会と組織と人」の関係変化として明らかにするとともに、新たに「職場関係学」の視座から提言を試みる。

障害者の倫理 フリーコからパラリンピックまで
北島加奈子 著
182ページ・2860円

静かな怒り、確かな意志。生の障害、障害の生、そして、ほんとうの生。障害の社会モデル、そして、パレシアを、論じて生きる。「24時間テレビ」「青い芝の会」「障害者レスラー」などのテーマを題材にM・フリーコを切り口に服従するだけではない主体(他)を追求する。

晃洋書房

〒615-0026 京都市右京区西院北矢掛町7番地

TEL: 075-312-0788

FAX: 075-312-7447

※価格は税込



シリーズ Social History of Japan

関西大衆食堂の社会史

奥井亜紗子〔著〕

●33000円

●「餅系食堂」からみた都市移動と立身出世

「力餅食堂」「大力餅食堂」「千成餅食堂」など、京阪神都市圏の下町商店街にある典型的な「昔ながら」の大衆食堂として、うどんや丼等の飲食に加えて店頭でおはぎや赤飯を販売した「餅系食堂」。庶民の食文化の一端を形作ってきた餅系食堂のモノグラフを通して、戦後日本における人々の都市移動や家族変動、地域社会の姿を描き出す。

「冒険・探検」というメディア

高井昌史〔著〕

●30300円

●戦後日本の「アドベンチャー」はどう消費されたか

「音」と「声」の社会史

坂田謙司〔著〕

●30800円

●「見えない音と社会のつながりを観る

神と妖怪の防災学

高田知紀〔著〕

●31900円

●「みえないリスク」へのそなえ

大貫恵佳・木村絵里子・田中大介・塚田修一・中西泰子〔編著〕

●ガールズ・アーバン・スタディーズ ●33000円

●「女子」たちの遊ぶ・つながる・生き抜く

ツーリズム・リサーチメソッド入門

遠藤英樹〔編著〕

●31900円

●「観光」を考えるための道案内

無作為抽出ウェブ調査の挑戦

杉野勇・平沢和司〔編著〕

●30600円

多様化する現代の労働

石井まこと・江原慶〔編著〕

●57200円

●新しい労働論の構築に向けて

▼これから生きる人に寄り添う社会政策をめざして――

社会政策入門

石井まこと・所道彦・垣田裕介〔編著〕

●20900円

●これからの生活・労働・福祉

増補新版 人間の条件 そんなものない

立岩 真也 著

四六判432頁・19800円

原爆映画の社会学

好井 裕明 著

被爆表象の
批判的エスノメソドロジ―
四六判416頁・39600円

自然死(老衰)で逝くということ

グリーブホーム「わたしの家」で父を看取る

三浦耕吉郎 著
四六判332頁・24200円

ネオリベリズム概念の系譜

下村 晃平 著

1834-
2022
四六判320頁・46200円

戦艦大和の歴史社会学

塚原真梨佳 著

軍事技術と日本の自画像
四六判304頁・35200円

里山と地域社会の環境史

岡田 航 著 多摩ニュータウンにおける社会変動とへ根ざしなおし

A5判272頁・46200円

現代南インドの女性たち

西村 祐子 著

カーズトがもたらす
規範と幸福
四六判308頁・37400円

文章に生きる

チエーホフと、エスノグラフィ―を書く

キリン・ナラヤン 著 波佐間逸博 訳 梅屋 潔 解説
四六判288頁・37400円

法のエスノメソドロジ―

「生ける秩序」の
法社会学
トラヴァース、マンソウ 編 北村隆憲 監訳 岡田光弘・小宮友根・池谷のぞみ 訳
A5判420頁・55000円

新社会学研究 2024年 第9号

特集 社会学の過去と現在と未来

櫻田美雄・栗田宣義・好井裕明・三浦耕吉郎・関礼子・小川博司 編

闘う1980年代 社会運動史研究6

大野光明・小杉亮子・松井隆志 編 天野恵一・朴容福／金田地・杉浦郁子
和田悠・兵頭淳史・原山浩介・黒坂愛衣ほか

A5判200頁・28600円

新曜社 東京 神田区 101-0051 千代田区 3-9 千代田区 3-9 千代田区 3-9



最新の情報は新曜社 web サイトへ

新版

質的研究入門 〈人間の科学〉のための方法論

●ウヴェ・フリック 小田博志 [監訳] 画期的入門書として支持されてきた『質的研究入門』を全面改訂。新たな11章を増補し「質的研究」の最新動向を詳細に盛り込んだ待望の1冊。人文・社会諸科学だけでなく、医学・看護学の学生・研究者、エスノグラフィーに関心のある読者、ジャーナリスト、さらにはマーケティング分野の実務家も必携。日本語版独自の解説付き。【13刷】A5判/688頁/4,950円



改訂版

エスノグラフィー入門 〈現場〉を質的研究する

●小田博志 人々が生きる現場をどう内側から理解し深めていくか。医療・介護・福祉・教育等ヒューマンサービスの現場のみならず、マーケティング分野でも必須の調査手法を第一線の人類学者が初心者向けにきわめて実践的に解説。最適な入門書として支持されてきた名著を全面改訂。【2刷】A5判/376頁/電子版有/3,630円



質的研究の方法 いのちの〈現場〉を読みとく (新装版)

●波平恵美子 [語り手] 小田博志 [聞き手] 質的研究の方法と可能性をめぐって、エスノグラフィー論の俊英を聴き手に、斯界の第一人者として数多くの業績を残してきた文化人類学者が大いに語る。人間への鋭くあたたかな眼差しに貫かれた、命の現場と関わるための体験的アプローチ。四六判/240頁/電子版有/2,640円



市民社会論の再生 ポスト戦後日本の労働・教育研究

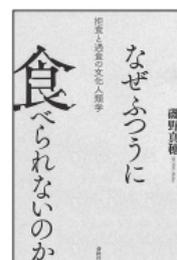
●稲葉振一郎 新自由主義は勝利したのか？ マルクス主義の失墜を受けとめつつも、なおも残る有効な洞察を探索し、段階論としての現代社会論を総括、未来の社会科学の展望を開く野心作。四六判/242頁/電子版有/2,860円



なぜふつうに食べられないのか

拒食と過食の文化人類学

●磯野真穂 医療が語り得ぬもの。質的研究の実践、食体験準拠論の試み。思春期の女性はなぜ痩せたがるのか。医療の視点では捉えきれない摂食障害の内実をエスノグラフィーの手法を援用し、4年間111時間におよぶインタビューを通し、6人の「語り」のなかに食の本質を探る。【7刷】四六判/312頁/2,750円



チョンキンマンションのボスは知っている

アングラ経済の人類学

●小川さやか 香港のタンザニア人ビジネスマンの生活は「まさか！」の連続。独自の互助組合、信用システム、SNSによるシェア経済……。既存の制度に期待しない人々が見出した、合理的で可能性に満ちた有り様とは。閉塞した日本の状況を打破するヒントに満ちた一冊。第51回大宅壮一ノンフィクション賞、第8回河合隼雄学芸賞受賞。【18刷】四六判/276頁/電子版有/2,200円



図書出版 春秋社

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-18-6

☎ 03-3255-9611 FAX 03-3253-1384

<https://www.shunjusha.co.jp/>

〈価格はすべて税込〉

*最新情報はこちらから →

<https://haruaki.shunjusha.co.jp/>



グローバル化と日本 (グローバル・スタディーズ) 叢書 4
内海博文編著 A5・並製・四五二頁・五二八〇円

地方社会の危機に抗する(地域生活文化圏)の形成と展開
西村雄郎・岩崎信彦編著 A5・上製・八四〇頁・一六五〇〇円

住民投票運動とローカルレジーム [増補第2版]
中澤秀雄著 A5・上製・三三〇頁・六三八〇円

災禍の民衆知と避難行動の比較分析
松本行真編著 A5・上製・三三八頁・五七二〇円

市民による市民のための後見人の仕事
松村直道編著 加藤・阿部・久保田・丹澤・西沢著 A5・並製・二二〇頁・二二〇〇円

福島「オルタナ伝承館」ガイド
除本理史・河北新報社編著 A5・並製・七二頁・九九〇円

「地域の価値」をつくる
除本理史・林美帆編著 A5・並製・二二六頁・一九八〇円

「ソ連社会主義」からロシア資本主義へ
岡田進著 A5・上製・二八八頁・三九六〇円

「障害者」は私たちにとって「やっかいもの」なのか
野村恭代著 A5・並製・八八頁・一一〇〇円

労働社会学者・河西宏祐と労働者の共同性
松永伸太郎・永田大輔著 A5・上製・二〇〇頁・二九七〇円

市場都市イギリス・ヨークの近現代
武田尚子著 A5・上製・五一四頁・七四八〇円

社会秩序とその変化についての哲学
伊多波宗周著 A5・並製・二四四頁・二九七〇円

メルボルンの女性のライフコース
野邊政雄著 A5・上製・四八八頁・六四九〇円

ヴェーバー後、百年
森元孝著 A5・上製・三七六頁・六三八〇円

原発分断と修復的アプローチ
成元哲・牛島佳代編著 A5・並製・二六四頁・三九六〇円

安藤昌益——社会学者からみた昌益論
橋本和孝著 四六・上製・二〇八頁・二七五〇円

平和社会学研究 創刊号・第2号
平和社会学研究会編 A5・並製・(創)二八〇頁・二九七〇円(2)三〇四頁・三〇八〇円

居住困窮の創出過程と居住福祉
岡本祥浩著 A5・上製・二八〇頁・五九四〇円

居住福祉を学ぶ——居住福祉教育課程の構想
岡本祥浩著 居住福祉新ブックレット1 A5・並製・一三六頁・一三二〇円

ふるさととの原風景をふたたび
黒田睦子著 居住福祉新ブックレット2 A5・並製・一三六頁・一三二〇円

ウトロ・強制立ち退きとの闘い
斎藤正樹著 居住福祉新ブックレット3 A5・並製・一四四頁・一三二〇円

地域を基盤とした福祉のしくみ
野村恭代著 居住福祉新ブックレット4 A5・並製・一一二頁・一一〇〇円

⑪神戸市真野地区に学ぶこれからの「地域自治」
乾亨著 コミュニティ政策叢書 A5・上製・四八八頁・五七二〇円

自治会・町内会と都市内分権を考える
名和田是彦著 まちづくりブックレット1 A5・並製・八五頁・一一〇〇円

横浜の市民活動と地域自治
石井大朗編著 吉原・山田・澤岡・淵元著 A5・並製・一一二頁・一一〇〇円

地元コミュニティの水を飲もう——ポストコロナ時代のまちづくりの構想
鳥越浩之著 まちづくりブックレット4 A5・並製・一三六頁・一一〇〇円

熟議するコミュニティ
伊藤雅春著 まちづくりブックレット5 A5・並製・九六頁・一一〇〇円

子ども会と地域コミュニティの関係を考える
JACP中部支部編著 まちづくりブックレット6 A5・並製・八〇頁・一一〇〇円

新たな時代への地域運営組織を考える
JACP中国地域研究支部編集委員会編 まちづくりブックレット7 A5・並製・九六頁・一一〇〇円

まちづくりにおける「対話型市民参加」政策の見た夢と到達点
谷深川・北川・江藤・篠原・乾著 まちづくりブックレット8 A5・並製・二二八頁・一一〇〇円

18テーマより編纂・収録した社会学者必読の作品集。
第1期・第2期全12巻完結、第3期も続々刊行

第I巻 人間論の社会学的方法 第II巻 死者とのつながり

第III巻 老いとほなにか 第IV巻 現代世界の子どもたち

第V巻 日本文化試論 第VI巻 『菊と刀』ふたたび

第VII巻 福祉社会学宣言 第VIII巻 福祉社会学革命

第IX巻 教育勅語の社会史 第X巻 教育基本法の社会史

第XI・XII巻 マンガ文化1・2 第XIII・XIV巻 日本人の社会心理1・2

第XV巻 あしなが運動と玉井義臣

【タイムテーブル・会場】

5月31日（土）

11:00～	受付開始	1階フリースペース
11:30～16:35	開催校企画展示	ゼミ室10
12:00～14:10	研究報告Ⅰ	
	1. 農山漁村・地域社会	324 教室
	2. 政治・社会意識	325 教室
	3. 社会病理・社会問題	326 教室
	4. 文化・知識・科学（1）	334 教室
12:00～14:30	◆若手企画①「死に対処する現代社会の知と実践」	332 教室
	◆若手企画③「レイウイン・コンネル『マスキュリニティーズ』を再考する」	333 教室
14:25～16:35	研究報告Ⅱ	
	5. 都市	324 教室
	6. 文化・知識・科学（2）	325 教室
	7. 社会福祉・医療	326 教室
	8. コミュニケーション・情報	327 教室
	9. ジェンダー・セクシュアリティ（1）	328 教室
	10. 理論・学説	336 教室
	◆自著を語る～MY FIRST BOOK～	334 教室
16:45～17:30	総会	324 教室
17:40～19:00	懇親会	11号館11階スカイラウンジ

6月1日（日）

9:00～	受付開始	1階フリースペース
9:00～16:00	開催校企画展示	ゼミ室10
9:30～11:40	研究報告Ⅲ	
	11. エスニシティ	324 教室
	12. 社会史・歴史社会学	325 教室
	13. 教育	326 教室
	14. 経済・経営・産業・労働	327 教室
	15. ジェンダー・セクシュアリティ（2）	328 教室
9:30～12:00	◆若手企画②「日本の近代を〈宗教的なるもの〉との関わりで考える」	332 教室
	◆若手企画④「家族実践の社会学」	333 教室
13:00～16:00	大会シンポジウム「時間と空間のいま」	
	（1）「空間とコミュニケーションの変容」	324 教室
	（2）「近現代における時間と社会」	325 教室
	開催校シンポジウム「今、社会学教育に何が必要か」	326 教室

<大会実行委員会（開催校）・研究活動委員会からのお願い>

(1) 一般研究報告（部会口頭報告）・「自著を語る」報告者の方へ

- 報告者は部会開始時間の5分前までに会場に集合して、司会者と打ち合わせをしてください。
 - 1報告あたりの報告時間は25分です。
 - 会場では配布資料のコピーサービスはできませんので、報告者は50部程度ご用意ください。
 - 報告申込の際に情報機器の使用を希望した報告者の会場には、プロジェクタ他の当該機器が備えられています。パソコンはご自身で持参してください。プロジェクタとパソコンを接続するケーブル（HDMI）は備わっています。Macをご利用の場合はアダプタもお持ち下さい。また、学内のWiFiに接続することも可能です。
 - 機器や接続には故障や不具合が生じる場合があります。万一に備え、機器なしでも滞りなく発表できるようにご準備ください。機器を利用する方は、部会の始まる10分前に報告教室にお集まりいただき、その教室で機器が正常に作動するかを確認してください。
 - 大会奨励賞受賞者は、学会ホームページで発表します。
- ※ 大会の直前に発表をキャンセルする場合は、研究活動委員会アドレス（2023kansya〈アットマーク〉gmail.com）にメールするか報告者・司会者向けに別途お知らせする緊急連絡用電話番号に連絡してください。

(2) 参加登録について（詳細は学会ホームページをご参照ください）

- 第76回大会では、すべての参加者が事前に参加登録と参加費の支払いをする必要があります。
 - 大会参加登録は、下記の第76回大会特設サイトからおこなってください。締切は5月15日（木）17時です。当日受付はありませんので、締め切りまでに参加登録と参加費・懇親会費のお支払いをお願いします。
<https://kansya2025.award-con.com/>
 - 大会参加費は、一般（会員・非会員）2000円、学生・院生（会員・非会員）500円、常勤職でない会員500円です。懇親会費は、一般（会員・非会員）3000円、学生・院生（会員・非会員）1500円、常勤職でない会員1500円です。また大会2日目の昼食（お弁当）代は、一律1000円です。大会参加費と希望するオプションの代金をまとめて、クレジットカード決済または銀行振込による事前支払を期日までに完了してください。
 - 銀行振込の場合は、事務局が入金を確認した後に正式登録がなされるため、手続き完了まで少し時間がかかります。クレジットカード決済の場合は、オンライン上の手続きのみで登録が完了します。
 - 銀行振込の口座：ゆうちょ銀行
- 【他行からゆうちょ銀行に振り込む場合】ゆうちょ銀行 四〇八（読み：ヨンゼロハチ）支店
支店コード：408 普通預金 口座番号：8012280 口座名義：カンサイシャカイガツカイ
- 【ゆうちょ銀行から振り込む場合】四〇八（読み：ヨンゼロハチ）店
振込用の記号-番号：14040-80122801 普通預金 口座名義：カンサイシャカイガツカイ
- 大会参加費、懇親会費、大会2日目の昼食代の領収書は大会特設サイトからPDFファイルでダウンロードできます。大会特設サイトは当学会がブランドコンセプト社に委託し構築します。クレジットカード決済の場合、大会参加費はいったんブランドコンセプト社に集約されますが、集計後、当学会に払い戻されます。クレジットカード決済の場合、領収書にブランドコンセプト社の記載が入りますが、大会参加費、懇親会費、大会2日目の昼食代の支払先は関西社会学会です。

(3) 報告要旨集について

- 報告要旨集は、学会ホームページまたは大会特設サイトからダウンロードしてご覧ください。

(4) 大会期間中の一時保育について

- 事前エントリー申込をされた方に別途ご案内申し上げます。詳細は大会ホームページをご覧ください。

第1日 5月31日(土)

研究報告 I 5月31日 土曜日午後 12:00~14:10

1. 農山漁村・地域社会 (324教室) 司会:二階堂裕子(ノートルダム清心女子大学)
1. 中国農村部における介護実践と介護観
—四川省C村のフィールドワークより— LIU CHAOYUE 神戸大学
 2. 閉校は地域の子どもに何をもたらしたのか
—閉校記念誌と過疎地域で生まれ育った若者の語りから— 水野遼太郎 京都大学
 3. 被差別部落における「教育コミュニティ」形成の試み
—滋賀県栗東市における教育実態調査から— 内田龍史 関西大学
 4. 伝統武術の文化資源化にみられる農村・都市間の往還
—ある農村出身の武術指導者を事例に— 範麗娟 関西学院大学
2. 政治・社会意識 (325教室) 司会:井上義和(帝京大学)
1. かわぐちかいじ原作マンガにおける専守防衛と戦死
—「戦わない軍隊」が戦うための儀式表象に着目して— 津田壮章 京都大学
 2. 一般市民と自衛隊退職者の平和・安全保障問題に関する意識
—Webモニター調査に基づく計量分析— 吉田純 京都大学
 3. 現代政治経済学と補完型所得保障の考察 稲葉年計 東京都立大学
 4. 自己責任論の普及と責任の組織化
—イラク日本人人質事件における責任の組み立ての検討— 稲葉渉太 京都大学
3. 社会病理・社会問題 (326教室) 司会:藤澤三佳(京都芸術大学)
1. 自殺念慮を巡る中国の実態について
—アンケート調査に基づく性別、地域、年齢層による特徴と考察— 周新宇 南山大学
 2. 受刑者による経験の物語化とその技法
—William Head on Stageの脚本を事例として— 加藤このみ 立命館大学
 3. 性風俗業に従事する中高年女性の現状と課題 金益見 神戸学院大学
 4. 「その後」をめぐる社会的排除とジェンダー構造
—元受刑者の女性の語りに着目して— 竹松未結希 立命館大学
4. 文化・知識・科学(1) (334教室) 司会:戸江哲理(神戸女学院大学)
共同報告:買い物の社会学(1~3)
1. 世界制作としての楽々カート
—買い物の社会学(1)— 樫田美雄 摂南大学
 2. 衣料品売場での相互行為場面にみる「装うこと」の現実
—買い物の社会学(2)— 堀田裕子 摂南大学
 3. 「楽々カート」への創造的習熟の実相
—買い物の社会学(3)— 加戸友佳子 摂南大学

◆若手企画①「死に対処する現代社会の知と実践——『死の社会学』の再起動に向けて」(332教室)
企画者：藤井亮佑（関西学院大学）
司会：韓光勲（梅花女子大学）

- | | | |
|--|------|----------|
| 1. 近代社会の死別のアノミー
—デジタル社会における死と不死— | 藤井亮佑 | 関西学院大学 |
| 2. なぜ墓地は「死」を表象しなくなったのか？
—生物のエージェンシーに注目して— | 辻井敦大 | 甲南大学 |
| 3. 死者と生者の関係性
—「死の社会学」再考の糸口として— | 磯部美紀 | 親鸞仏教センター |
| 4. 原爆記念日の社説からみた被爆地長崎の平和意識の変容 | 渡壁晃 | 京都大学 |

討論者 梅村麦生（神戸大学）

◆若手企画③「レイウイン・コンネル『マスキュリニティーズ』を再考する」(333教室)
企画者・司会：堀内翔平（京都大学）

- | | | |
|---|------|---------|
| 1. 男性性の変革を捉える方法
—マスキュリニティーズ』における生活史に着目して— | 堀内翔平 | 京都大学 |
| 2. コンネルに男性のセラピー文化を諦めさせないために
—男性相談実践の理論化に向けて— | 西井開 | 立教大学 |
| 3. 『マスキュリニティーズ』における語りの解釈
—ラディカル構造主義に起因する課題を踏まえた展望— | 田中裕史 | 名古屋大学 |
| 4. 「ゲイと男性性」研究の日本的展開の可能性
—ジェンダー／セクシュアリティの交錯という観点から— | 島袋海理 | 国際基督教大学 |

開催校企画展示	5月31日 土曜日	11:30~16:35
	6月 1日 日曜日	9:00~16:00

◆開催校企画展示：「万博とナショナリズム」（ゼミ室10）

第1日 5月31日(土)

研究報告Ⅱ 5月31日 土曜日午後 14:25~16:35

5. 都市 (324教室) 司会: 山北輝裕 (日本大学)
共同報告: 不安定就労と都市居住、その歴史と現在を考える (1~4)
1. 戦間期の日雇い労働者と宿泊保護事業
—神戸における共同宿泊所の展開に着目して— 中川祐希 大阪公立大学
 2. 飯場労働者の生活空間と記録
—中島敏フォトアーカイブをもとに— 渡辺拓也 大谷大学
 3. 大都市における商品化された共同居住
—東京の事業体介在型シェア住居の実態調査に基づいて— 李知垣 京都大学
 4. 土田英雄のドヤ街=巨大複合スラム論
—大阪社会学研究会の社会解体地域と簡易宿泊所調査— 櫻田和也 大阪公立大学
6. 文化・知識・科学 (2) (325教室) 司会: 菅原祥 (京都産業大学)
1. 映画における「富士山」表象
—「日本の象徴」の脱神話化に向けて— 長門洋平 東京都立大学
 2. 特攻映画レビューの対応分析
—脱文脈化説の再検討— 川原吉貴 株式会社アプリス
 3. 演劇表現の制作を通じた「戦争」へのまなざし
—マームとジプシー『cocoon』を事例にして— 佐々木知子 京都大学
 4. 「ポーランド人民共和国時代の生活博物館」における展示の言説分析
升一亜海 名古屋大学
7. 社会福祉・医療 (326教室) 司会: 近藤理恵 (岡山県立大学)
1. 日本におけるヤングケアラー政策の展開とその特徴 張瑜淳 京都大学
 2. 質的調査における意図せぬセラピー効果
—発生要因と研究上の配慮の検討— 桜井政成 立命館大学
 3. 「子ども食堂」はどのように記述されているか
—論文群のディスコースの検討— 豊島伊織 京都大学
8. コミュニケーション・情報 (327教室) 司会: 鈴木謙介 (関西学院大学)
1. 現代日本社会における「生活テンポの加速」の世代差の検証 真鍋公希 中京大学
 2. 状況・形・指さしのマルチモーダルな表現で達成される未来行為
—在宅療養場面の相互行為のビデオエスノグラフィー分析— 松浦智恵美 立命館大学
 3. 家庭・生活・地域に浸透する防災コミュニケーション
—ラジオ局の南海トラフ準備状況調査より— 松浦さと子 龍谷大学

9. ジェンダー・セクシュアリティ (1) (328教室)

司会：山根真理 (神戸大学)

1. マッチングアプリにおける「恋愛」の困難

—首都圏の若年ゲイ・バイセクシュアル男性に着目して—

秋丸竜広 大阪大学

2. 性的に欲望される「異性婚」の問題点とその可能性

—『薔薇族』・『バディ』のゲイマンガを中心に—

白井望人 神戸大学

3. 戦後日本における少女の同性愛の認識

—1945～1969年の専門知の言説から—

上村太郎 京都大学

4. 身体接触の両義性に関する検討と課題

中田奈月 奈良佐保短期大学

10. 理論・学説 (336教室)

司会：高橋顕也 (立命館大学)

1. G・H・ミードの社会的自己論の再検討

—ニューロン研究の知見を活用した「I」の復権とsymbolic interactionism本流への再接合—

鎌田大資 椋山女学園大学

2. U・ベックの「コスモポリタン化論」構想

—規範理論を棄却した意図をめぐって—

大川内晋 神戸大学

3. 近年の知識社会学的研究の動向について

—思想の社会学とインテレクチュアル・ヒストリーの交差の観点から—

下村晃平 立命館大学

4. 初期ガーフィンケルによる「知覚の衝突」概念の再検討

成田まお 神戸大学

◆自著を語る～MY FIRST BOOK～ (334教室)

司会：高谷幸 (東京大学)

1. 『「ビッグイシュー」の社会学——ホームレスの対抗的公共圏をめぐって』(明石書店、2024年)

八鍬加容子 九州産業大学

2. 『陸軍将校たちの戦後史——「陸軍の反省」から「歴史修正主義」への変容』(新曜社、2024年)

角田燎 立命館大学

3. 『児童養護施設のエスノグラフィー——「実践」からみる子ども生活の社会学』(勁草書房、2023年)

三品拓人 筑波大学

総会・懇親会 5月31日 土曜日午後 16:45～19:00

◆総会 16:45～17:30 (324教室)

◆懇親会 17:40～19:00 (11号館11階スカイラウンジ)

第2日 6月1日(日)

研究報告Ⅲ 6月1日 日曜日午前 9:30~11:40

- 1 1. エスニシティ (324教室) 司会: 山下泰幸 (神戸大学)
1. 多文化地域のイスラーム施設における女性・子どもへの支援
—大阪市西淀川区の2つのイスラーム施設の例から— 梶本圭子 大阪公立大学
 2. 大都市人口回帰地区における中国人ニューカマー家族の移住に関する研究
HE MIAOMIAO 大阪公立大学
 3. ニューカマー第二世代のエスニック・アイデンティティと教育達成
—達成を果たした韓国系に着目して— 韓在賢 京都大学
 4. トッドの人類学的基底とホフステッドの六指標の関係性の整理
—Rによる統計学的分析に基づいて— 小川晃生 愛媛大学
- 1 2. 社会史・歴史社会学 (325教室) 司会: 石田あゆ (桃山学院大学)
1. 近代日本における「工業立国」観念の歴史社会学的分析
—町田忠治の言説史からみる恣意性と脆さ— 吉田光 京都大学
 2. 戦後の「飲酒の管理」に関する諸研究の検討 松井達也 京都先端科学大学
 3. ひのえうま現象にみる家父長制とジェンダー
—これは何なのか?そしてどうなる令和のひのえうま— 吉川徹 大阪大学
 4. 女性のパブリック・ヒストリーにおける「女性の戦争責任」論
—1990年代前後の展開に着目して— 峯桃香 立命館大学
- 1 3. 教育 (326教室) 司会: 工藤宏司 (大阪公立大学)
1. 1970~80年代の関西の夜間中学における同和・解放教育論 江口怜 摂南大学
 2. なぜ子どもの困難は学校で表面化されないのか
—リアリティ分離の観点から— 大久保遥 京都大学
 3. 不登校・登校拒否対策政策の変容
—文部省・文部科学省の通知文書の言及関係— 藤根雅之 関東学院大学
 4. 高校普通科改革が抱える困難と矛盾
—地方公立高校の探究学習をめぐる状況を中心に— 野中康生 神戸大学
- 1 4. 経済・経営・産業・労働 (327教室) 司会: 妹尾麻美 (追手門学院大学)
1. 就職氷河期世代のプレカリティ
—就労と健康の関係に着目したライフストーリー分析— 磯部さざみ 京都府立大学
 2. 自己目的化する大卒就職活動とその隘路
—「ポスト就職氷河期」という視座から— 和藤仁 関西学院大学
 3. 留学生の希望就労先選定に関する思考の探索的研究
—求人票の順位付インタビュー調査から— 王地裕介 大阪大谷大学
 4. 仕事と不妊治療の両立
—夫婦での取組を中心に— 乙部由子 名古屋市立大学

15. ジェンダー・セクシュアリティ (2) (328教室)

1. 地方女子高出身者の進学と就職における地域移動
2. 地方の高校生の考えるライフプランと「地元」
3. 理工系出身の女性はガラスの天井を破れるか
—分位点回帰モデルによる職業的達成の分析—
4. 見えないワークを「見る」
—大学運動部学生スタッフを対象としたIEの経験的研究—

司会：藤野敦子（京都産業大学）
 日高正樹 島根県立大学
 智羽美月 公益財団法人中国地域
 創造研究センター
 イ ハンソル 京都大学
 関めぐみ 甲南大学

若手企画 6月1日 日曜日午前 9:30~12:00

◆若手企画②「日本の近代を〈宗教的なるもの〉との関わりで考える——戦後の社会学者たちの残した可能性」
 (332教室) 企画者・司会：松野靖子（関西学院大学）

1. 柳田国男の祖霊信仰論と他者理解
—平田篤胤の国学との比較から吉本隆明まで—
2. 大村英昭の宗教理論の再検討
—民俗信仰への問い—
3. 「悪」と「勇氣」
—ロバート・ベラーと否定の論理—
4. 宗教を超える宗教、ヒューマニズムを超えるヒューマニズム
—見田宗介における土着の普遍性—
5. 作田啓一におけるキリスト像の変遷と〈死〉
—『ドストエフスキーの世界』から晩年のノートへ—

松野靖子 関西学院大学
 松本隆志 関西学院大学
 宮部峻 立命館アジア太平洋大学
 徳宮俊貴 大阪産業大学
 佐藤裕亮 立教大学

◆若手企画④「家族実践の社会学——行為に着目する家族研究の意義と方法論の検討」(333教室)

企画者：三品拓人（筑波大学）
 司会：永田夏来（兵庫教育大学）

1. 「家族実践の社会学」の発展に向けて
—理論の概要と応用の取り組み—
2. 社会的養護における家族実践
—施設経験者の語りとフィールドワークから—
3. 医療分野における家族実践
—当事者と支援者の語りから—
4. ジェンダーと家族実践
—異性愛夫婦カップルの関係性、女性たちの子育てから—

三品拓人 筑波大学
 ○宇田智佳 関西大学
 西林佳人 関西学院大学
 ○笠井敬太 桃山学院大学
 松元圭 新潟医療福祉大学
 ○岡田玖美子 奈良女子大学
 桑山碧実 大阪大学

討論者 戸江哲理（神戸女学院大学）・片岡佳美（島根大学）

◆大会シンポジウム：「時間と空間のいま」

(1) 「空間とコミュニケーションの変容——公私の境界線を問いなおす」(324教室)

司会：平井晶子（神戸大学）

1. 長屋暮らしから公私の区分を置き直す
—リミナルな空間としての路地と共有領域— 永田夏来 兵庫教育大学
2. シェア居住の実践にみる公私の新しい接点
—空間の変化による住人の公私の意識変化— 福澤涼子 株式会社第一生命
経済研究所
3. 後期近代の公共建築
—リスクマネジメントによって生み出される建築空間— 松村淳 神戸学院大学

討論者 牧野智和（大妻女子大学）

(2) 「近現代における『時間と社会』」 (325教室)

司会：松田素二（総合地球環境学研究所）

1. 終電と酩酊
—20世紀の都市勤労者の時間規律的飲酒様式— 右田裕規 山口大学
2. 近代的時間形式としての「締切」 梅村麦生 神戸大学
3. 死と情動
—タイのフィールドから— 西井涼子 東京外国語大学
4. デジタル社会と時間 伊藤美登里 大妻女子大学

討論者 多田光宏（熊本大学）・松田素二（総合地球環境学研究所）

◆開催校シンポジウム：「今、社会学教育に何が必要か」(326教室)

司会：好井裕明（摂南大学）

櫻田美雄（摂南大学）

1. 「地域と学生の協働的实践」で、社会で活躍できる人材の育成に取り組む
上野山裕士 摂南大学
2. 社会を創る／文化を創る
—地域連携プロジェクトから社会の学びへ— 岡崎宏樹 神戸学院大学

コメンテーター 工藤保則（龍谷大学）
加戸友佳子（摂南大学）
江口怜（摂南大学）

<会場案内：摂南大学寝屋川キャンパス>

(1) キャンパスマップ

- 会場は正門から左手、バスロータリーに一番近い「3号館」です。受付・報告会場へは3号館のロータリー側入口からお入りください。
- 懇親会会場は3号館となりの「11号館」の最上階「スカイラウンジ」です。3号館と2号館の間を抜けて11号館に向かい、1階にある3基のエレベータをご利用下さい。



(2) 宿泊について

- 大会実行委員会から宿泊斡旋はいたしませんので、会員各自でご予約してください。

(3) 大会期間中の昼食について

- 大会2日目についてはお弁当の用意をいたします（1000円）。希望される方につきましては、大会参加申込に併せてお弁当の申込と費用の振込をお願いいたします。
- 大会1日目の昼食につきましては、各自ご持参いただくか最寄り駅の飲食店をご利用ください。
※1日目は学内食堂（報告会場の向かい、2号館1階）も営業しておりますが、メニュー数が限られております（土曜11:30～12:30、日曜は休業）。
- コンビニは学内（2号館1階、土曜は11:30～12:30のみ営業、日曜休業）、正門向かいにセブンイレブンがありますが、それ以外近隣にはありませんのでご注意ください。

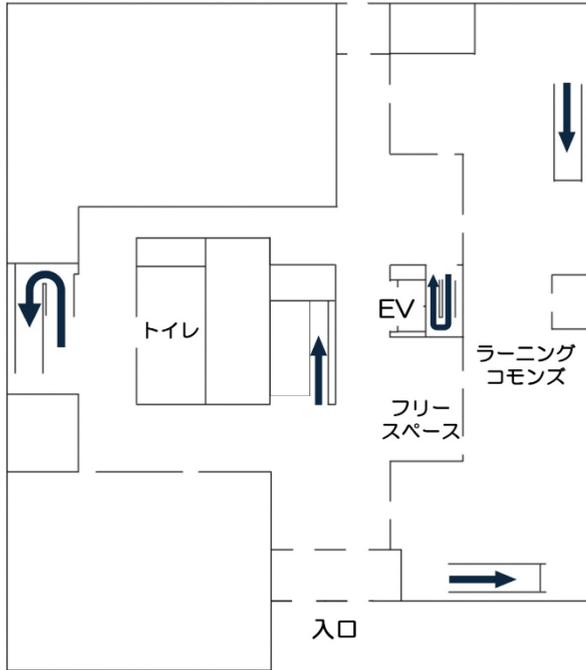
(4) 交通アクセス

- 大阪府寝屋川市池田中町17-8 (<https://www.setsunan.ac.jp/about/access/>)
京阪本線「寝屋川市」駅から京阪バスに乗り「摂南大学」下車（約15分）。
大阪メトロ谷町線大阪モノレール「大日」駅から京阪バスに乗り「摂南大学」下車（約15分）。
JR京都線「茨木」阪急京都線「茨木市」駅から京阪バスに乗り「摂南大学」下車（約28分）。

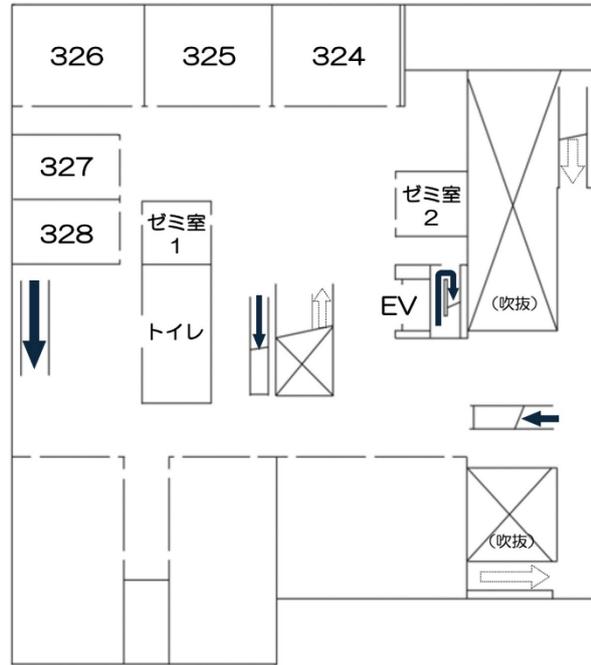
(5) 会場配置図

寝屋川キャンパス3号館

3号館1階



3号館2階



3号館3階



- ◆ 受付は1階フリースペース付近に設置します。会員控室はその横の「ラージング commons」エリアです。
- ◆ 書籍販売コーナーは2階「ゼミ室 1」です。
- ◆ 25日(土曜日)理事会の会場は3階「337 教室」です。
- ◆ 1日(日曜日)シンポジウム打ち合わせ会場は3階「334 教室」「336 教室」「多目的室」です。
- ◆ 喫煙は所定の場所(会場から向かいの「国際会館」付近)にてお願いします。